

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人
北秋田市社会福祉協議会

■総括

コロナ禍から社会経済活動の正常化が進みつつあります。一般的には感染拡大が経済に与える影響は以前に比べて小さくなっているものの、福祉業界には高齢者や基礎疾患のある方など重症化しやすい方の生活を維持するといった社会的使命があるため、最終的に大きなしわ寄せを被る構造はこれからも変わりません。実際に、オミクロン株のまん延以降、度重なるクラスターが発生し、やむを得なく休業措置をとったことによる経営への大きな影響がありました。また、職員の出勤停止に伴い、他の職員が過重労働になる事態にも見舞われ、粉骨砕身して事業継続に努めました。

さらに、ウクライナ情勢の長期化に伴い世界的なエネルギー・食料価格の高騰もまた経営への影響を避けられませんでした。

こうした状況は市民生活にも波及し、格差拡大による貧困の増加、孤独・孤立化の進行等、福祉課題の深刻さが増しています。これらの課題を総合相談機能の強化や当会が有するネットワークを基盤に多機関多職種と協働しながら受け止め、支援を展開しましたが、新型コロナウイルス感染に伴う経済的困窮にスポットをあてた国の支援もなくなったため、今後は社会経済活動の再開の陰で埋もれてしまう課題に向き合っていくことも当会の使命になっていきます。

これからも住民の主体的なかかわりと一人ひとりの助け合いを基盤に誰もが役割をもち主体的に地域に参加する「地域共生社会の実現」に向けて、自治会町内会、民生委員・児童委員はもとより幅広い福祉関係者とのネットワークを活かしながら地域づくりの一翼を担って参ります。

令和4年度の重点目標の1点目として、住民参加・協働による地域福祉事業の推進に取り組みました。新型コロナウイルス感染症の影響により休止していた社会福祉大会も3年ぶりに開催し、コロナ禍で気づかされた、つながりづくりの大切さを共有する機会となりました。

2点目の地域における支え合いの仕組みの構築では、自治会町内会をはじめとする福祉活動への助成支援を効果的に活用していただきながら、サロン活動、地域内研修、お便り配布、除雪支援、配食活動等様々な支え合いのメニューを提案し助成支援を行いました。

3点目の地域に根ざした総合相談・援助体制の確立では、問題を抱える世帯や個人においてはその内容が複雑化、多様化している状況にあります。市内全域が対象となった地域包括支援センターをはじめ北秋田くらし相談センターと連携して多様な相談

に対応しました。他の関係機関との連携が必要なケースも多く、職員や相談員の専門性を高めながら適切に対応できる体制づくりに取り組みました。

4点目の第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の中間評価と見直しでは、策定委員会にて中間評価を実施しました。新型コロナウイルス感染症の拡大で影響を受けた事業への評価をはじめ、地域ニーズとのマッチングや行政との連携に関するご意見を委員の方からいただきました。

5点目の社協会員の加入促進では、チラシの作成をはじめ広報における使途のPR、各種事業を通じた周知活動を実施しました。会員加入の地区バランスの不均等は正に向けて、会費を原資としている助成事業の申請要件に社協会員であることを盛り込みながらPRを行いました。今後も会費を地域内循環させながら社協の意義の浸透に努めます。

6点目の生活困窮者への相談支援の強化では、秋田県社会福祉協議会から受託している特例貸付の償還開始に伴う手続きなど、新型コロナウイルスの影響で困窮した方の相談対応を行いました。また、東北コープをはじめ地域から寄せられた食品を困窮者世帯につなげるフードバンク事業も丁寧な対応を心掛けました。

7点目の介護保険事業の経営改善では、月1回開催している法人経営会議にて月毎の収支状況を共有し、生産性の向上に向け課題点を協議しながらボトムアップで改善に向けた取り組みを行いました。今後は労働力の確保とともに、その質をいかに向上させていくかが一層重要となってきます。柔軟な働き方を拡大し、意欲のある多様な人材が長く活躍できる環境を整備するため、秋田県介護サービス事業所認証評価制度の導入をはじめ、特定技能外国人介護人材の受け入れにも着手しました。

8点目の法人全体のIT化の促進と介護ロボット導入の検討については、介護スマートデバイスの運用の問題点や改善項目吸い上げ、都度、改修を実施しました。引き続き運用事業所を拡大して更なる効率化を目指すとともに、オンラインシステムの適正な運用や会計帳簿の電子化、インボイス制度の導入にも遅滞なく対応していきます。また、事故防止や職員の負担軽減のため導入しているセンサーマットの検証を実施しておりますが、今後は新たな見守りシステムの導入を推進します。

9点目の組織体制の見直しでは、利用者の効率的な受け入れを可能にするための事業所移転をはじめ、法人全体ではキャリアパスの見直し、役職分類の整理、給料表や役職手当の見直しを実施しました。

10点目の総合的な権利擁護体制の構築では、当地域の後見ニーズの高まりに対応できるように体制を整備しました。「きたあきた権利あんしんセンター」では、これまでの日常生活自立支援事業と併せて法人後見の受任を開始しました。また、次年度、第2期成年後見制度利用促進基本計画に基づく中核機関を受託するための準備事業を展開しました。

当会は地域における介護保険サービスのシェア率が高く、安定的なサービス供給と

いう観点からも社会的な役割が高くなっています。それぞれの事業の不断の改革を行いつつながら地域住民のニーズに沿った事業経営を展開していくとともに、併せて、社協に求められている地域福祉づくりの推進にあたり、各関係機関をはじめ福祉分野を越えた連携を広めだれもが安心して暮らせるまちづくりに努めて参ります。

1. 会務の運営

定款に基づき、適正な法人運営を図るため、理事会、評議員会を開催し、各種規程の見直しや住民参加の事業推進に取り組んだ。内部監査として、役員監事3名により財務と業務の監査を年2回実施し、外部監査としては公認会計士から月に1回指導を受け、透明性のある会計処理と財務状況の分析を行った。

【理事会の開催】

開催日	会場	出席者	案件
令和4年 6月7日	北秋田市森吉生活支援ハウス	理事10名 監事 3名	① 副会長の選任について ② 令和3年度事業報告(案)並びに収支決算(案)について ③ 規程の改正について ④ 評議員選任・解任委員の選任について ⑤ 評議員候補者の推薦及び評議員選任委員会の開催について ⑥ 評議員会の招集について
令和4年12月18日	(書面表決)	理事11名 監事 3名	① 令和4年度第1次補正予算(案)について ② 評議員会への提案について
令和5年 3月10日	(書面表決)	理事 9名 監事 3名	① 令和4年度第2次補正予算(案)について ② 規程の制定について ③ 規程の改正について ④ 令和5年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について ⑤ 評議員会の招集について

【監査会の開催】

開催日	会場	出席者	案件
令和4年 5月31日	北秋田市森吉生活支援ハウス	3名	① 令和3年度事業報告並びに収支決算について
令和4年11月30日	北秋田市森吉生活支援ハウス	3名	① 令和4年度上半期事業報告並びに収支決算について

【評議員会の開催】

開催日	会場	出席者	案件
令和4年 6月29日	北秋田市森吉生活支援ハウス	評議員 17名 理事 1名 監事 3名	① 令和3年度事業報告(案)並びに収支決算(案)について ② 理事の選任について
令和4年12月21日	(書面表決)	評議員 20名 理事 1名	① 令和4年度第1次補正予算(案)について
令和5年 3月27日	(書面表決)	評議員 15名 理事 1名	① 令和4年度第2次補正予算(案)について ② 令和5年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について

【正副会長会議】

開催日	会場	出席者	案件
令和4年 6月7日	北秋田市森吉生活支援ハウス	2名	① 6月7日開催の理事会に上程する議案について
令和5年 3月10日	北秋田市森吉生活支援ハウス	3名	① 3月10日開催の理事会に上程する議案について

【法人経営会議】

毎月1回、「増収と経費削減」に向け、幹部職員、現場の職員が一堂に会し協議している。職員の経営感覚の醸成、意識改革につながっている。

【支所長会議】

毎月1回、各支所長、部長、施設長等の管理職が出席し、各支所施設の情報の交換伝達及び事務事業の調整を行っている。

【運営会議】

毎月1～2回、各センター(事業所)、各施設において情報の共有と連絡調整を行っている。法人の方針や事業内容の周知がなされている。

【苦情解決会議】

毎月1回、各センター(事業所)、各施設において事務局、現場の職員が一堂に会して利用者の方からの苦情に対して真摯に取り組む体制づくりに努めている。職員のリスクに対する意識を高め、リスクマネジメントの徹底を図った。苦情とヒヤリ

ハットは小さな事柄でも常に報告し、全職員がサービスの向上と改善、再発防止に努めている。

【安全衛生委員会】

毎月1回、労働災害防止の取り組みや職員の健康管理を目的に安全衛生委員会を開催している。職場での災害の防止、疾病予防として基本となるべき対策を衛生管理者、産業医の指導を受けて取り組んでいる。

【安全運転委員会】

職員の交通安全に対する意識を高め、職員による交通事故の防止の徹底を図ることを目的に各事業所の安全運転管理者、副安全運転管理者が隔月（偶数月）に安全運転委員会を開催し、事故、ヒヤリハットを報告し合い、再発防止策を検討し職員への適切な安全運転教育を行っている。

冬季のスリップ事故や、雪に隠れた障害物への衝突事故が増加傾向にあり、安全確認の方法について見直しを図ったうえで事故防止に取り組んでいる。

【各種委員の派遣状況】

1. 秋田県認知症介護指導者の派遣

地域福祉部くらし相談係主任 成田啓悦、ケアタウンたかのす短期入所生活介護事業所ユニットリーダー 松橋美樹子を秋田県社会福祉協議会主催の認知症介護研修の講師として派遣した。

開催日	会議等名称	会場	内容	派遣者
令和4年 6月9日 6月23日 8月2日	認知症介護 実践者研修（第1回）	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「実習の課題設定」 指導「経過報告会」 指導「自施設実習評価」	成田
令和4年 9月16日	第1回認知症介護カリ キュラム検討委員会	オンライン	令和5年度認知症介護研 修カリキュラムについて	成田 松橋
令和4年 9月29日 10月7日 10月26日 12月2日	認知症介護 実践リーダー研修	秋田市 秋田県社会福祉会館	講義「職場内教育の方法 の理解と実践Ⅱ（技 法）」 指導「実習の課題設定」 指導「経過報告会」 指導「自施設実習評価」	成田
令和5年 2月3日 2月17日 3月24日	認知症介護 実践者研修（第2回）	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「実習の課題設定」 指導「経過報告会」 指導「自施設実習評価」	成田 松橋

令和5年 2月17日	第2回認知症介護カリ キュラム検討委員会	オンライン	認知症介護研修の総括 次年度研修計画の検討	成田 松橋
---------------	-------------------------	-------	--------------------------	----------

2. 北秋田市地域医療連携センター運営委員の派遣

ケアタウンたかのす支援相談員 岩谷華子、北部地域包括支援センター長 森山祐行、ひだまり居宅介護支援事業所管理者 高橋トモ子を北秋田市地域医療連携センター運営協議会の委員として派遣し、医療・介護・行政との連携に努めた。

開催日	会議等名称	会場	内容	派遣者
令和4年 7月4日	第1回北秋田市地域医療連携センター運営協議会	北秋田市民病院3階 大会議室	活動状況 事業報告 事業計画(案)等	森山 岩谷 高橋

3. 北秋田市支え合い推進委員の派遣

地域包括ケアシステム構築に向けた第一層協議体の委員として地域福祉部部長の野崎 祐、北部・中部・南部包括支援センターから各1名を委員として派遣し、体制づくりの推進に努めた。

開催日	会議等名称	会場	内容
令和4年 11月1日	第1回推進会議	市民ふれあいプラザ コムコム	第2層生活支援コーディネーター活動報告 地域課題の検討 消費者安全確保地域協議会について
令和5年 2月3日	第2回推進会議	市役所大会議室	消費者安全確保地域協議会報告 地域資源、リスト作成について

4. 自殺予防対策委員の派遣

自殺予防対策として鷹巣阿仁地域自殺予防ネットワーク会議並びに北秋田市心の健康づくりネットワーク会議の委員に地域福祉部の野崎祐を派遣し自殺対策の推進に努めた。

開催日	会議等名称	会場	内容
令和4年 9月15日	鷹巣阿仁地域自殺予防ネットワーク会議	(書面開催)	・秋田県及び管内の自殺の状況について ・令和4年度の自殺予防対策事業 ・各機関における関連事業について ・管内の自殺予防対策について
令和5年 2月17日	北秋田市いのち支える自殺対策計画策定・評価委員会及び北秋田市心の健康づくりネットワーク会議	北秋田市保健センター	・北秋田市自殺統計について ・自殺対策評価について ・第2期自殺対策計画について

5. 秋田県地域医療構想調整会議委員の派遣

医療計画において定める将来の病床数の必要数を達成するための方策その他の地域医療構想の達成を推進するために必要な事項について、北部地域包括支援センター森山祐行を派遣し協議を行った。

開催日	会議等名称	会場	内容
令和4年 9月7日	地域医療構想調整会議	オンライン会議	地域医療構想の進め方について 令和3年度病床機能報告について

6. 北秋田市総合戦略検証会議委員の派遣

第2次北秋田市総合計画及び北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の客観的な評価・検証を行う会議にケアプランセンターひだまりの佐藤真弓を派遣し、地域創生の確実な実施につなげるための意見交換を行った。

開催日	会議等名称	会場	内容
令和5年 3月10日	第1回北秋田市総合戦略検証会議	市民ふれあいプラザ 「コムコム」	総合戦略・総合計画の評価と検証
令和5年 3月27日	第2回北秋田市総合戦略検証会議	市民ふれあいプラザ 「コムコム」	総合戦略・総合計画の評価と検証

【市社協新人職員研修】

新人職員が社協職員としてのアイデンティティや仕事に対する姿勢の確立、基礎的な業務の進め方、福祉サービスの心構え等を身につけてもらうことを目指し新人職員研修を実施した。

令和4年4月4日 7名

【資格取得奨励】

職員にとって確かな知識と高い技術を身につけることは不可欠であり、職員の資格取得を奨励している。結果として、令和4年度においては新たに介護福祉士5名、社会福祉士2名が合格した。

【新型コロナウイルス感染症対策について】

感染対策チームを設置し、定期的に感染者情報の把握、感染対策の協議、行動指針の改訂等を行い、常に最新の情報発信を行いながら利用者及び職員の安全確保に努めた。

- ・職員行動指針の作成（～第19版）
- ・各施設のオンライン面会の実施
- ・コーディネート機能確保事業の継続
- ・事業所毎のBCP（業務継続計画）の見直し
- ・衛生用品及び備品の確保（通年）
- ・抗原検査キットの無料配布

2. 総合企画・啓発活動

① 第18回 北秋田市社会福祉大会

- ・開催日 令和4年11月11日（金）
- ・会場 北秋田市文化会館
- ・参加者 200人（入場者数制限）
- ・テーマ 「未来へ つながりづくりの再出発」
- ・映画上映 「ぼけますから、よろしくお願ひします～おかえり お母さん～」

3年ぶりとなる開催で、新型コロナウイルス感染拡大防止のため人数制限し、客席の間隔を開けるなど対応した。

式典では、北秋田市社会福祉協議会会長表彰に地域社会奉仕功労6団体、社会福祉施設従事者功労15名、社会福祉協議会従事者功労55名。秋田県共同募金会会長表彰（伝達）は民生委員児童委員従事者功労10名、5団体・1名。

文化庁映画賞を受賞するなど高い評価を得たドキュメンタリー映画を上映。新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、認知症の母を介護する98歳の父の姿、家族での看取りの在り方が描かれており、来場アンケートでも「家族のつながりとはかけがえないものと考えさせられた」「お互いの思いやり、言葉を大切に生活したい」などこれからのつながりづくりを考えていただける機会となった。

② 「ケアタウンたかのす」における啓発活動

開催日	事業名	内容
中止	桜まつり	新型コロナウイルス感染予防の観点から中止した。
中止	花の広場	新型コロナウイルス感染予防の観点から中止した。

中 止	夏祭り	新型コロナウイルス感染予防の観点から中止した。
中 止	敬老式	新型コロナウイルス感染予防の観点から中止した。
中 止	忘年会	新型コロナウイルス感染予防の観点から中止した。
随時	施設見学の受け入れ ボランティア・実習の受け入れ	施設への理解を深めていただくために、見学受け入れを随時行っている。 受入れ人数8人 ※新型コロナウイルス感染予防の観点から、補助器具センターへの見学のみ可能とした。

③ 「もろび苑」における啓発活動

- ・令和4年9月16日 敬老式 入居者のみで実施 43名参加
- ・令和5年2月9日 大阿仁小学校との交流会
6年生7名 入居者31名参加
学習発表会で披露した歌に合わせた踊を入居者と一緒に振り付けをして交流。
- ・令和5年3月2日 大阿仁小学校6年生の課外授業の受け入れ及び交流会
6年生7名 入居者20名参加
ボランティア活動として入居者と一緒に施設で飲むお茶のバック詰作業を行った後、交流会を実施

④ 「つむぎの彩」における啓発活動

新型コロナウイルス感染予防のため全て中止とした。

⑤ 社協だよりの発行

- ・発行月 令和4年4月、7月、10月
令和5年1月（年4回）
- ・部 数 13, 430部
- ・内 容 地域の福祉活動、在宅福祉サービス、介護サービス、共同募金等の記事を掲載した。地域包括支援センターのお知らせや赤い羽根募金箱設置店舗・企業紹介などを掲載して情報発信を行っている。
引き続き、情報の周知を図っていきたい。

⑥ 苦情解決第三者委員相談日

⑦ 苦情解決第三者委員会

新型コロナウイルス感染予防のため、相談日・委員会とも開催を中止した。

3. 福祉を支える人づくり

① 介護職員初任者研修

<高校生向け初任者研修>

- ・開催日 令和4年7月22日～8月21日
- ・会場 補助器具センターたかのす
- ・受講生 高校生3名

北秋田市の委託事業として北秋田市在住の高校生を対象に行う研修も7年目となったが、福祉希望の学生の減少のため受講生は3名と少ない応募となった。一般向け研修とあわせて、要件や募集方法などの検討が必要となっている。

<一般向け初任者研修>

- ・開催日 令和4年10月25日～令和5年3月22日
- ・会場 補助器具センターたかのす
- ・受講生 6名

② 福祉体験学習

- ・開催日 令和4年11月11日（木）
- ・参加者 鷹巣小学校4年生 56名
- ・内容 高齢者疑似体験を通して高齢者への理解を深めるとともに福祉の仕事の大切さを考える機会を提供した。

③ 仕事博覧会、仕事ガイダンスへの参加

- ・令和4年6月28日、秋田県主催のお仕事博覧会へ参加し地域の中학생に対して福祉の仕事をPRし将来の進路選択の幅を広げるきっかけづくりを行った。
- ・令和4年10月31日、鷹巣中学校校内ハローワークにケアタウンたかのす介護長 鈴木美香子を派遣し、介護職の仕事ややりがい、魅力について紹介し、生徒に勤労観、職業観を身につけさせるキャリア教育への支援を行った。

④ ボランティアスクール

新型コロナウイルス感染症拡大により中止。

⑤ 福祉教育応援事業

地区名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
たかのす	件数	8	7	7	7
	助成金額	320,000	280,000	280,000	280,000
あいかわ	件数	2	2	2	2
	助成金額	80,000	80,000	80,000	80,000
もりよし	件数	3	3	3	3
	助成金額	120,000	120,000	120,000	120,000
あに	件数	3	3	3	3
	助成金額	120,000	120,000	120,000	120,000
合計	件数	16	15	15	15
	助成金額	640,000	600,000	600,000	600,000

北秋田市内の小、中、高等学校、県立比内支援学校たかのす校（計15校）の児童・生徒の福祉に対する理解と関心を深め、地域に根ざした福祉教育を実践していただくために各校40,000円の助成を実施した。今後、各校の報告を取りまとめた報告書を配布する。コロナ禍の中、本来予定していた事業が実施できなかった学校が多く見られたものの、これまで継続してきた疑似体験や一人暮らし高齢者への訪問、感染対策に考慮しながら施設訪問等を実施した学校もみられた。

⑥ 生活支援サポーター養成講座

住民主体による生活援助や隣近所の見守りなど、生活支援に特化した担い手の養成講座を、北秋田市より委託を受け実施。地域のボランティアや互助の力を引き出し、相互に支え合う体制づくりを目指す。

介護保険制度の目的やしくみ、訪問活動の際の心得、認知症の正しい理解などについて講座を実施した。

広報等で講座の案内を出しているが、申し込みが少ないことが例年の課題となっている。今年度は北秋田市老人クラブ連合会へ案内し参加いただいた。

- ・開催日 令和4年7月26日
- ・会場 北秋田市民ふれあいプラザコムコム
- ・参加者 15名

⑦ 資格取得実習生の受け入れ

令和4年10月4日に秋田大学医学部生の施設実習で2名、令和4年5月30日～7月16日に理学療法科臨床実習1名を介護老人保健施設ケアタウンたかのすにて受け入れた。

⑧ 終活セミナーの開催

権利擁護体制整備のための地域への啓蒙活動も含め行ってきたが感染防止のため中止した。今後は中核機関「北秋田市成年後見支援センター」の市民向け講座として継承していく。

4. 健康と生きがい、仲間づくり活動の推進

① 地域福祉活動支援事業

地区名	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	たかのす	件数	21	22	21
	助成金額	904,000	958,000	901,000	1,013,500
あいかわ	件数	11	11	11	11
	助成金額	524,500	467,000	420,500	436,500
もりよし	件数	21	22	21	20
	助成金額	972,000	894,500	885,500	886,000
あに	件数	10	9	11	10
	助成金額	372,500	345,500	423,500	380,411
合計	件数	63	64	64	61
	助成金額	2,773,000	2,665,000	2,630,500	2,716,411

ゴミ出しやお便り発行など、3密を避けながらもはじめられるメニューも設定し、これからの福祉活動の在り方を提案しながら運用を進めた。買い物支援をはじめとした通院送迎やサロン送迎、熊対策を兼ねた地域全体での干し柿づくりなど地域の特性をいかしながら課題解決に向けた取り組みが実践されている。また、引き続き衛生用品助成事業も助成対象項目へ加え、21団体より申請があった。

申請団体の実践報告をまとめた活動報告書を作成し、社協会費のPRをはじめ、実施していない自治会町内会への周知活動、啓蒙活動も実施した。

(衛生用品助成事業)

地区名	申請団体	助成金額
たかのす	8 団体	82,008 円
あいかわ	3 団体	21,020 円
もりよし	4 団体	35,905 円
あ に	6 団体	23,755 円
合 計	21 団体	162,688 円

② 地域福祉活動スタート支援事業

地域でサロンを立ち上げたい、またはリスタートしたいという自治会・町内会の相談がここ数年少なくなってきた。今後、自治会町内会など対象の別事業を周知する際に併せて事業の周知に努めていきたい。

③ ボランティア活動保険助成

ボランティア活動保険には17団体323名の加入があった。充実したボランティア活動を継続的に行っていただくためにも、保険加入への周知を図りたい。

④ 除雪ボランティア活動

地区名	実施日	対象世帯	実施団体
たかのす	令和5年1月20日	3世帯	比内支援学校
	1月27日	3世帯	
あいかわ	令和5年2月27日	2世帯 2施設	合川中学校
あ に	令和5年2月1日	2世帯	阿仁中学校

除雪が困難な一人暮らし高齢者の方、障がい者世帯の方々を対象に実施。民生委員のご協力を得ながら対象世帯を選定しコーディネートした。

⑤ 災害ボランティア事前登録団体

災害ボランティアとして登録している団体の他、自治会町内会長を対象とした防災研修を企画したが、新型コロナウイルスの地域内感染が増加したことにより中止とした。引き続き次年度開催につなげたい。

8月の豪雨災害では被災地区の視察及び聞き取りを行い災害ボランティアセンターの開設の可否を検討した（床上浸水 たかのす地区5件、もりよし地区2件）。開設には至らなかったものの引き続き、市役所危機管理係、自治会町内会長、民生委員との連携のもと災害発生時には被災地のニーズ調査を行う。

⑥ 高齢者世帯歳時買い物支援事業の開催

一人暮らし高齢者世帯や高齢者夫婦世帯など、普段外出する機会の少ない高齢者を対象に社会参加、仲間づくりを目的に開催。交通機関の不自由さや高齢者の閉じこもりなど地域福祉課題の解決に向けた活動にもつながった。

- ・開催日 令和4年8月5日、令和5年3月16日
- ・場 所 市内ショッピングモール
- ・参加者 延べ8名

⑦ 当事者団体への支援

会計及び事務局：身体障がい者協会、手をつなぐ育成会、遺族連合会、ボランティア連絡協議会

事 務 補 助：老人クラブ連合会

⑧ 除雪機及び福祉車両貸出事業

福祉車両は様々な団体に活用していただき喜ばれた。

(たかのす地区)

- ・除雪機 貸出件数0件
- ・福祉車両 貸出件数28件 延べ利用者477人

(あいかわ地区)

- ・除雪機 貸出件数0件
- ・福祉車両 貸出件数1件 延べ利用者6人

(もりよし地区)

- ・除雪機 貸出件数0件
- ・福祉車両 貸出件数45件 延べ利用者748人

5、地域福祉活動の推進

① 全戸訪問活動

令和4年度は実施せず、今後は地域の声や関係機関との連携により対象者を絞り込んで「アウトリーチ活動」として継承していく。

② 地域安全活動

当会は北秋田警察署と地域安全に関する覚書を締結しており、交通事故や犯罪のない地域をめざして地域見守りネットワークに取り組んでいる。公用車にステッカーを貼り、犯罪や事故の発生抑止を図っている。また虐待が疑われるケースや孤独死の情報提供なども寄せられ、地域安全活動に寄与する部分も多様化してきている。

③ 認知症高齢者等見守りネット事業

登録内訳	年度			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
登録利用者数	36	38	34	26
登録協力者数(個人)	4	2	2	2
登録協力者数(団体)	17	16	16	16
登録協力者数(事業所)	54	53	53	53

認知症の方が住み慣れた地域で安心して生活出来るように、あたたかく見守る仕組みづくりとして各関係機関と、地域住民の協力のもとで事業を展開した。

令和4年度新規登録利用者は2名。登録利用者の検索依頼は無かったが、担当ケアマネジャーからの依頼で管内社協職員へ行方不明検索依頼を配信したケースが1件あった。大事には至らなかったが、今後も各関係機関との連携、事業の強化に努めたい。

④ たすけあい資金貸付事業

地区名	年度	年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
たかのす	貸付件数	6	9	7	8
	貸付金額	197,000	405,000	285,000	403,000
	償還金額	241,000	220,000	371,000	296,000
あいかわ	貸付件数	7	3	5	貸付件数 2
	貸付金額	260,000	127,000	152,000	
	償還金額	356,000	202,000	97,000	貸付金額 150,000
もりよし	貸付件数	4	1	0	償還金額 163,000
	貸付金額	135,000	50,000	0	
	償還金額	117,000	83,000	10,000	
あ に	貸付件数	4	3	1	0
	貸付金額	150,000	150,000	50,000	0
	償還金額	179,000	149,000	40,000	30,000
合 計	貸付件数	21	16	13	10
	貸付金額	742,000	732,000	487,000	553,000
	償還金額	893,000	654,000	518,000	489,000

借入理由としては、予定外の出費等による生活費が多かった。

償還に関しては、年2回の督促状、電話や訪問での償還指導を行いながら滞納世帯の状況把握に努めている。償還免除に該当する世帯は無かった。

複合的な課題を抱え生活困窮に至っている世帯からの相談が多いので、自立相談支援事業やフードバンク事業と一体的にすすめている。物価高騰も続いており、今後も関係機関や民生委員と連携しながら世帯の自立促進を図っていきたい。

【たすけあい資金運営委員会】

開催日	会場	出席者	内容
令和4年7月15日	もりよし生活支援ハウス	11名	令和3年度貸付・償還状況について (貸付・完済件数、督促状送付並びに家庭訪問等の状況)

⑤ 生活福祉資金貸付事業

地区名	年度	令和2年	令和2年	令和3年	令和3年	令和4年		令和4年	
		通常貸付	特例貸付	通常貸付	特例貸付	通常貸付	特例貸付	通常貸付	特例貸付
たかのす	貸付件数	0	17	3	27	4		2	
	貸付金額	0	4,050,000	422,000	10,900,000	1,099,000		200,000	
あいかわ	貸付件数	1	5	0	5	貸付件数	0	貸付件数	0
	貸付金額	80,000	1,100,000	0	1,900,000				
もりよし	貸付件数	0	5	0	5	貸付金額	0	貸付金額	0
	貸付金額	0	1,250,000	0	1,650,000				
あに	貸付件数	0	1	0	0	0		0	
	貸付金額	0	200,000	0	0	0		0	
合計	貸付件数	1	28	3	37	4		2	
	貸付金額	80,000	6,600,000	422,000	14,450,000	1,099,000		200,000	

通常貸付はたかのす取扱い分の4件。内訳としては、総合支援資金の生活支援費、福祉資金の福祉費、緊急小口資金となっている。離職し雇用保険受給までの生活費、住居のボイラー設備に必要な経費など用途内容となっている。

令和2年4月から開始されたコロナウイルスの影響による特例貸付は令和4年9月末で終了した。多くが令和5年1月から償還開始となるが、コロナ禍による困窮から生活再建できていない状況もうかがえる。また、申請により償還免除になった世帯も

あるが、今後の償還については市社協としても債権管理業務、相談支援業務など新たに対応が必要となってくることが予測される。

⑥ きたあきた権利あんしんセンター

・日常生活自立支援事業

地域名		年度				
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
たかのす	実利用者数	18	20	26	29	
あいかわ		1	1	1		
もりよし		8	7	7	7	
あ に		4	3	2	1	累計実利用者数
契約数		16	4	9	8	44
解約件数		4	7	4	7	年度末利用実人員
合 計		12	△3	5	1	37

今年度は主に社協内部からの利用に関する相談が多く、契約件数以上の相談件数となった。本人に判断能力がまだ十分にあり、利用の対象とならなかったこと、施設入所や親族管理により契約に至らなかったケースが多かったが、その反面で、身元引受人や親族がいないケース、土地や相続問題が絡み本事業の枠に収まりきれないような相談も多かった。また、利用者の中でも認知症高齢者の方に判断能力の低下が見られているため、本事業ではなく成年後見制度の利用を促すべきケースも増加している。

また、本事業の対象とはならない方の相談や家族形態の変容により、家族や親族がおらず、施設入所や病院入院する際に伴う身元保証人についての相談、資力の少ない方が制度の狭間に陥っているケースもあり、どう支援していくのかという課題も生じている。

・法人後見事業

2件の後見を受任している。裁判所や法人後見運営委員会と連携しながら身上監護、財産管理を実施している。また、成年後見制度の総合相談窓口として関係機関より相談を受け付けたが、次年度以降は成年後見支援センターへ引き継ぐ。

類型	受任	終了
後見	2	0
保佐	0	0
補助	0	0
任意後見	0	0

<セミナーの開催>

令和5年3月3日 「成年後見制度の具体的な活用と社会資源について」

講師：司法書士、市役所消費生活問題担当職員 参加者数：38名

<法人後見運営委員会>

令和5年3月24日 「後見人受任ケースの進捗状況について」

「北秋田市成年後見支援センター（仮称）中核機関の設置について」

⑦ 北秋田くらし相談センター

区分	年度			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
相談件数				
新規実人員数（本人特定）	90	100	86	78
自立相談支援プラン作成	12	7	13	4
家計改善支援事業プラン	1	2	0	2

生活困窮者自立支援法に基づき、自立相談支援事業と家計改善支援事業を北秋田市から受託して行っている。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う給付や支援が終了していく中で、コロナ禍以前から抱えていた課題が表出している。依然として孤立やひきこもり、病気や障がい・介護、家庭不和など複合的な問題を抱えた相談が多い。

<支援調整会議>

支援プランと評価の確認・決定。課題の検討や関係機関との情報交換など。

令和4年度6回開催。（2月と3月は書面確認。）

<研修・その他会議等>

生活保護受給者等就労自立促進事業協議会、依存症相談支援担当者研修会、多重債務相談スキルアップ講座、ひきこもり相談支援者研修会などに参加して

いる。

<居場所支援活動>

引きこもりがちな方の居場所づくり活動を中止し、代わりに電話で状況を確認したり、障害者の支援事業に繋いだりしている。

<フードバンク>

区分	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	フードバンク利用実人数	21	23	28	34
フードバンク利用延べ回数	46	40	61	65	

企業や個人からの寄付された食料や生活必需品を、一時的に食料支援を必要とする方に提供している。たくさんの寄付があった菓子類は地域の居場所作り活動で利用して貰った。

⑧ ほほえみ祝い金

地区名		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		贈呈者数				
たかのす	贈呈者数	61	57	56	52	
あいかわ		11	8	9	9	
もりよし		10	8	11	9	
あ に		0	4	2	4	
合 計		82	77	78	74	

共同募金の助成金により民生委員児童委員、自治会長を通して出生のお祝い金とトートバッグをお届けしており喜ばれている。

子育て世帯と地域内の支援ネットワークづくりのためにも、継続して実施する。

⑨ 高齢者世帯防火指導

地区名	実施日	対象世帯
たかのす	令和4年12月20日 令和4年12月21日	5世帯
あいかわ	令和5年2月15日 令和5年2月16日	7世帯
もりよし		7世帯
あ に	中止	0世帯

新型コロナの感染状況を見ながら、一人暮らし高齢者等を消防署員と民生委員、社協職員が訪問し、ストーブやガスコンロ等火の元の管理、たこ足配線、避難経路

の確保、火災警報器について点検をした。

⑩ 備品等貸出事業

(介護用品)

地区名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
たかのす	延利用 者数	31	43	47	34
あいかわ		10	4	6	10
もりよし		7	11	8	5
あ に		7	5	5	4
合 計		55	63	66	53

緊急的に福祉用具が必要な方へ、車イスや吸引器などを無料で貸し出しており喜ばれている。今後も定期的な機器のメンテナンス・消毒を実施し、安全性の確保に努めたい。

(レクリエーション備品)

区分		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
たかのす		70	117	78	50
あいかわ		46	38	43	34
もりよし		15	14	19	13
あ に		11	18	13	14
合 計		142	187	153	111

レクリエーション備品一覧表を全自治会町内会に郵送したり、社協だよりにて紹介するなど周知に努めている。数種類の備品を同時に活用する団体もあり、バラエティーに富んだサロン活動やイベント等に活用されている。貸し出し件数は減少しているものの、共同募金の助成金を活用して備品を整備する団体もあり地域福祉資源の裾野は広がっている。

⑪ 無料法律相談

開 設 日	相談者	担当弁護士
令和4年 4月21日	8人	藤原美佐子弁護士
令和4年 6月23日	4人	〃
令和4年 8月25日	5人	〃
令和4年 10月28日	7人	〃
令和4年 12月22日	3人	〃
令和5年 2月22日	4人	〃

北秋田市は弁護士空白地域で、法律相談のニーズは高い。令和4年度は70代からの相談が多かった。内容は相続に関するものが多く、女性からの相談が多かった。

⑫ 個別避難計画作成業務

災害対策基本法に基づき、自治体には避難行動要支援者個別避難計画の作成が義務づけられているため、作成にあたっては市より委託を受けて、平素より利用者への福祉支援を行っている相談員、介護支援専門員が行った。災害時に避難支援を行う人や避難経路、自宅見取り図を記載し、円滑かつ迅速な避難を図るための態勢づくりを支援した。

事業所名	同意書 作成 件数	計画書 作成 件数
ひだまり居宅介護支援事業所	42	38
ケアタウンたかのす居宅介護支援事業所	53	45
もりよし居宅介護支援事業所	14	14
あに居宅介護支援事業所	10	7
北部地域包括支援センター	2	1
相談支援事業所	18	13
合 計	139	118

6、在宅福祉活動の推進

① 外出支援サービス事業

地区名	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		利用実人員	82	64	84
たかのす	延利用者数	2,175	1,808	1,946	1,828
	利用実人員	41	30	38	29
あいかわ	延利用者数	483	486	567	345
	利用実人員	31	30	33	28
もりよし	延利用者数	572	552	655	638
	利用実人員	4	3	6	6
もろび苑	延利用者数	57	66	134	136
	利用実人員	158	127	161	142
合 計	延利用者数	3,287	2,912	3,302	2,947

市からの委託事業で高齢者や障がい者（児）等で公共の交通機関の利用が困難な方々の送迎を支援しており、利用者に変に喜ばれている。

合川地区と森吉地区を統合してあいかわ・もりよし地域福祉センターとしてスタートし、業務のスリム化と効率化を図った。(実績値は分けて記載)

昨年度はワクチン接種までの送迎が多かったが今年度は激減した。

障がい者の利用は安定した需要がある一方で、定期的な利用が必要な透析患者の方が亡くなることによって利用回数の減が目立つ形となった。

② 食の自立支援事業

地区名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
たかのす	利用実人員	79	73	70	95
	延食数	12,248	12,291	11,757	10,943
あいかわ	利用実人員	21	22	22	16
	延食数	2,469	2,931	2,935	2,430
もりよし	利用実人員	38	39	39	36
	延食数	4,398	6,203	5,576	6,326
あに	利用実人員	19	23	20	17
	延食数	1,758	1,852	2,165	1,399
合計	利用実人員	157	154	151	164
	延食数	20,873	23,277	22,433	21,098

365日の夕食の提供と安否確認の目的で実施されており、利用者からは味も良いと喜ばれている。認知症の利用者が増え、配達方法も試行錯誤しながら在宅高齢者の食生活を支援した。

光熱水費、材料費の高騰の影響を受け、現在の委託料では赤字になっているため、委託料の交渉が必要である。

森吉支援ハウス一箇所だけで調理を行っているため調理数に限界があり、新規の受け入れができない場合も生じている。

③ 緊急通報システム事業 (あんしん電話)

地区名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
たかのす	設置世帯数	189	177	176	90
あいかわ		47	43	45	41
もりよし		24	21	25	18
あに		35	29	26	21
合計		295	270	272	170

本人の死亡や転出、施設入所等により設置されたまま使用されていないケースの掘り起こしを行い台帳整理したため、設置世帯数が現状のものとなった。

一人暮らしの高齢者にとっては、設置することにより安心感につながっている一方、使い方が分からなかったり、誤報の件数も多い。また、機器の老朽化もみられ今後も事業を継続するのであれば、新しい機器の導入や通信情報システムの活用など、検討が必要と思われる。

④ 家族介護用品支給事業

地区名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
たかのす	利用実人員	28	18	23	20
	延利用者数	208	153	126	165
あいかわ	利用実人員	5	2	4	4
	延利用者数	30	15	20	28
もりよし	利用実人員	4	2	2	2
	延利用者数	21	13	13	16
あ に	利用実人員	4	2	1	2
	延利用者数	38	15	3	8
合 計	利用実人員	41	24	30	28
	延利用者数	297	196	162	217

支給対象者については要介護状態や所得により制限されているが、在宅で介護されている方にとっては経済的な負担の軽減につながっている。

昨年度と比較すると利用者実人員はほぼ変わらなかった。定期的に新規申込者があり延利用者数は増加したが、一方で昨年度と同様に支給対象者の死亡や施設入所に伴い中止となるケースも増えている。

⑤ 福祉の雪事業

地区名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
たかのす	登録世帯数	411	393	405	393
	延利用回数	741	4,513	5,286	3,413
あいかわ	登録世帯数	102	107	127	115
	延利用回数	582	1,210	1,534	1,034
もりよし	登録世帯数	149	145	152	157
	延利用回数	982	1,896	2,536	1,574
あ に	登録世帯数	153	146	143	143
	延利用回数	1,102	2,085	2,952	2,247
合 計	登録世帯数	815	791	827	808
	延利用回数	3,407	9,704	12,308	8,266

除雪が困難な高齢者や障がい者世帯の冬期間において作業による身体的な負担軽

減だけでなく、精神、経済的な安心感につながっている。今年度は昨年度と比較して積雪量が少なかったため利用回数は約 7 割ほどになっている。積雪量も少ない関係で業者対応も混乱が見られず、また、作業金額についてもトラブルが見られなかった。

7. 介護保険等事業

要介護状態になっても、施設や在宅において、適切な介護サービスを利用することにより、穏やかで安心した生活が送れるよう常に利用者の立場にたった相談援助や質の高いサービスの提供に努めた。利用者の方の尊厳を大切にし、一人ひとりの心に寄り添うきめ細かな介護に取り組んでいる。

ここ数年にわたり介護職員の人材確保が課題となっていたことにより、これまでのハローワーク等関係機関との連携による取組みのほか、新たに特定技能介護人材としてインドネシアから 7 名介護職員を採用した。長く日本で働くことができるよう細やかな支援に努めたい。

① 居宅介護支援事業

事業所名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
たかのす	利用実人員	687	771	862	920
	延利用者数	3,725	4,243	4,731	5,023
あいかわ	利用実人員	179	172	183	143
	延利用者数	1,742	1,680	1,707	1,380
もりよし	利用実人員	268	307	289	233
	延利用者数	2,368	2,834	2,096	2,002
あ に	利用実人員	220	205	171	143
	延利用者数	1,892	1,752	1,435	1,320
ケアマン	利用実人員	365	341	342	335
	延利用者数	3,400	3,294	3,242	3,258
合 計	利用実人員	1,719	1,796	1,847	1,774
	延利用者数	13,127	13,803	13,211	12,983

鷹巣地区では、長年在宅介護を続けている方々が施設入所を希望するケースが増加しており、介護の長期化に伴い介護者、家族の高齢化など新たな課題も生まれてきている。またコロナ禍の中、ご自宅での看取りを希望されるご家族も僅かながら増えてきており、在宅福祉サービスの充実とより一層多職種との連携強化が必要となってきている。

あいかわ・もりよし地区とも職員の減員のため昨年度より件数は減っている。

地域の方々のニーズも多様化する中で個々の相談に合わせた対応ができるようにケアマネ一人ひとりのスキルアップに努めている。

② 訪問介護事業

事業所名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
たかのす	利用実人員	237	366	431	461
	延利用者数	22,283			
あいかわ	利用実人員	75	38,364	44,274	43,234
	延利用者数	7,331			
もりよし	利用実人員	78	78	9,425	43
	延利用者数	11,216			
あ に	利用実人員	72	41	42	43
	延利用者数	9,589			
もろび苑	利用実人員	42	12,426	12,396	12,205
	延利用者数	12,094			
合 計	利用実人員	504	485	473	504
	延利用者数	62,513			

7月の事務所移転に伴い、特別地域加算を取得している。市街中心地から郊外へと移転したことで北秋田市4地区合併後の移動に伴う利用者受け入れを円滑にし、またケアタウン内への移転という事で施設から在宅復帰もしくは介護負担の軽減や利用者自身の機能維持のための施設利用など在宅生活継続のための相互目的に利する体制を目指した。

新型コロナウイルスの感染が集中的に流行した月があり利用中止となったり、もしくは在宅療養に伴い訪問介護による対応が必要なケースも数件見られた。罹患した利用者への対応は他職員や利用者への感染を防止するため、感染対策を徹底したうえで職員を限定し訪問を行っている。

記録作業はタブレット活用が浸透しているが、昨年度統合したあに地区は次年度に向けた取り組みとなっている。今後の可能性としてタブレットを活用した内部研修やミーティングが実施できることにより時間外勤務の削減や職員のスキルアップ、研修参加率の向上などに繋げるべく引き続き根気強く専門家との調整を図りたいと考えている。

③ 自費訪問介護事業

事業所名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
たかのす	利用実人員	41	60	52	75
	延利用者数	408			
あいかわ	利用実人員	13	460	684	574
	延利用者数	64			
もりよし	利用実人員	17	13	73	75
	延利用者数	356			
あ に	利用実人員	15	257	684	574
	延利用者数	659			
合 計	利用実人員	86	73	52	75
	延利用者数	1,487			

自費訪問介護サービスでは引き続き短期入所（ショートステイ）利用中の通院介助が多くみられた。介護保険による訪問介護サービスと違い随時的な利用となるため普段の様子が確認できず、医師から苦言を呈されることも屢々みられるため、今後も日頃の様子を把握している短期入所施設との情報共有が必須となる。関係機関との連携を密にすることで利用者の在宅生活を支援していく必要がある。

その他、日常生活の枠を超えた部分の家事援助（普段使わない場所の掃除など）ニーズは介護保険外のサービスになるため、柔軟な自費訪問介護サービスの活用を促しながら、社協の特性を生かしたサービス提供をしていく。

自費訪問介護サービスとしての柔軟さという特性を生かしつつも適正な運営を行い、同時に社会福祉協議会の役割でもある地域密着にも根差していきたい。

④ 通所介護事業

事業所名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
地域福祉センター	利用実人員	118	114	118	114
	延利用者数	9,393	9,319	8,509	7,865
つづれこ	利用実人員	88	93	101	96
	延利用者数	6,411	6,366	6,587	6,247
もりよし	利用実人員	165	162	148	129
	延利用者数	10,639	10,342	8,822	7,605
もろび苑	利用実人員	40	32	31	22
	延利用者数	3,230	2,815	2,082	1,396
ケアカン	利用実人員	97	97	92	92
	延利用者数	6,800	6,771	6,692	6,707
サポートハウス	利用実人員	114	115	99	92
	延利用者数	7,440	7,336	7,161	7,083
音彩くらぶ	利用実人員	113	128	127	128
	延利用者数	7,177	8,214	8,715	8,658
合 計	利用実人員	735	741	716	673
	延利用者数	51,090	51,163	48,568	45,561

生活への密着度が高く、在宅高齢者を支える家族にとっても切り離すことができないサービスの一つ。集団の中での活動・交流はデイサービスならではのものの、新型コロナウイルス感染の観点では、集団感染のリスクが高く、様々な感染対策を講じたが、もろび苑、サポートハウスを除く事業所で感染が確認され、まん延防止のため、2日～7日間にわたって休業措置を取った。

地区によって稼働率を維持している事業所と減少傾向の事業所とあるが全体としては在宅利用者が減っている傾向となっている。家族が遠方におり老老介護や高齢での一人暮らしが困難になり、施設入所を利用される方も多くなっている。半面、重度の方も含め、金銭的な事由等からデイサービスの利用を希望される方も見受けられるため、重度の方の受け入れ体制を強化し住み慣れた地域・自宅で過ごす時間

を少しでも確保して頂けるよう柔軟に対応していく。

また、地域福祉センター並びに森吉生活支援ハウスのデイサービスでは労働力不足の解消と事業所維持のため地域ニーズを考慮しながら日曜日を定休日とするなどバランスを取りながらの事業展開となった。

今後も職員の介護技術、サービスの質の向上を図ると共に iPad 等の IT の活用を進め生産性の向上と経営改革を進めていく。

⑤ 訪問入浴介護事業

事業所名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
北秋田市	利用実人員	54	35	50	69
	延利用者数	1,425	1,233	1,563	1,762

看護と介護がチームを組んでケアにあたり、身体機能の維持、床ずれ防止など長く在宅生活を継続していくには欠かせないサービスとなっている。地域ニーズに対応できるよう法人内の事業所と連携して職員体制を整え2台で活動している。

新型コロナウイルスの影響により市内事業所が一時休止になった際、一時的に利用者を受け入れたことや、夏以降に週2回利用や利用回数増の方が増加となり実績増となった。

⑥ 訪問看護事業

保険別		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
医療保険	利用実人員	50	46	60	61
	延利用者数	1,335	1,543	1,525	1,655
介護保険	利用実人員	80	95	97	86
	延利用者数	3,988	4,023	3,521	3,711
合計	利用実人員	130	141	157	147
	延利用者数	5,323	5,566	5,046	5,366

地域の在宅福祉と医療をつなぐ地域包括ケアの主要なサービスであり、在宅ターミナルの根幹を支える事業となっている。

⑦ 福祉用具販売事業

地区名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
北秋田市	販売件数	195	167	240	248

毎月には渡り特定福祉用具・特定介護予防福祉用具の購入依頼が多く昨年度に比べ増加となった。各居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、当法人各施設とのつながりを強化し、相談の受付や迅速な納品を行ったことで、在宅から施設利用者、

教育施設、障がい福祉の相談窓口である北秋田市基幹相談支援センターまで幅広い利用者等からの問い合わせや購入依頼があった。また、地域ニーズに沿った在庫管理と福祉用具貸与事業と連携を図っていくことで臨機応変な対応が可能な体制を強化していく。

⑧ 認知症対応型共同生活介護事業

事業所名		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
グループホーム ふなみ	利用実人員	25	20	21	23	
	延利用者数	6,479	6,534	6,505	6,443	
つづれこ グループホーム	利用実人員	12	10	9	9	
	延利用者数	2,900	2,896	2,898	2,870	
グループホーム あいかわ	利用実人員	13	10	10	12	
	延利用者数	3,189	3,197	3,281	2,873	
合 計	利用実人員	50	40	40	44	
	延利用者数	12,568	12,627	12,684	12,186	

グループホームふなみ・つづれこグループホームは入院に伴う退所が多く、コロナ感染対策のために入退所がスムーズに行えないケースもあった。

また、ADLの低下に伴い特養申請する方も増えてきている。

利用者の入院に伴う空床が生じたケースもあったが社会資源として有効稼働するため、極力、空床を作らないよう利用者の体調管理に努めるとともに、併せて関係機関と連携して引き続きスムーズな入退所に取り組んでいく。

⑨ 小規模多機能型居宅介護事業

事業所名		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
だんらん ハウス	利用実人員	24	25	23	23	
	延利用者数	4,762	4,782	5,104	4,310	

施設入所される方が多く、新規登録者数が伸びない月が続いた。新規利用者確保のため、居宅介護支援事業所との情報交換を継続し、登録者数を増やしていきたい。

⑩ 外部サービス利用型特定施設事業

施設名		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
もろび苑	利用実人員	42	41	42	43	
	延利用者数	12,094	12,426	12,396	12,205	

養護老人ホーム入居者の高齢化によって、入院・退所のサイクルが早まりサー

ビス利用者の選定が遅れたことで延べ利用者数の減少となった。今後の取組として、次の利用対象者を想定しながら業務を進めることで稼働率を維持できるように努めたい。

⑪ 介護老人保健施設

施設名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ケアタウン たかのす	利用実人員	120	129	138	133
	延利用者数	29,241	28,907	28,337	27,567

クラスターによる入退所の制限、また 80 人定員に対し入退所が 81 件と稼働率に影響したものの、在宅復帰率は50%。在宅サービスとの連携を図り、老健の本来の目的である在宅復帰機能が果たしている。また、医師を中心としたチームケアを行っており、施設での看取りも 13 件となった。今後も在宅復帰に向けた取り組みや、在宅復帰後の支援機能の強化を図るとともに、ユニット型個室の特長を生かしながら個別ケアを実践していく。

⑫ 通所リハビリテーション事業

施設名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ケアタウン たかのす	利用実人員	101	101	93	95
	延利用者数	6,810	6,676	6,612	6,456

新型コロナウイルスによるサービス利用休止、利用自粛がみられたが利用者のリハビリに対するニーズは高い。リハビリ機器を完備しており、データ管理に基づくケアと利用者個々の能力に応じた療法士によるリハビリを提供し、効果的な機能訓練を行っている。リハビリに関する療法士の専門的な見地から利用者等の状況に関する情報を在宅ケアマネと共有し、在宅での生活を支援している。

⑬ 短期入所生活介護事業

施設名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ケアタウン たかのす	利用実人員	108	74	95	99
	延利用者数	10,662	10,580	10,596	10,443

安定して新規利用の問い合わせがあり、待機者の方もいる。例年通り長期利用のニーズが高い傾向がみられている。長期利用は短期入所の本来の活用ではないものの、在宅主治医との連携を継続できること、定期的に複数の診療科を受診し

ている方でも入所できること、また、料金的事由や特養入所待機等の地域ニーズが背景にあることから、可能な限り柔軟に対応している。

⑭ 福祉用具貸与事業

事業所名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
補助器具センター	利用実人員	564	583	603	624
	延利用者数	5,067	5,271	5,357	5,556

新規利用が多く、施設入所、入院を上回っていることから延べ利用者数が増加している。地域のサロン等に参加してADLが低下しても福祉用具（車いす、手すり、電動ベッド、歩行器）を効果的に活用することで自立した生活が可能となることや、福祉用具をレンタルするための流れについて説明を行い周知活動に努めている。また、定期的に福祉用具の最新情報を関係機関に提供した。

⑮ 福祉用具安心サポート事業

事業所名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
補助器具センター	延利用者数	724	691	855	877

福祉用具安心サポート事業から福祉用具貸与事業への移行がみられる。今後も貸与事業と併せて新規利用者確保に向けたPRに努めたい。

⑯ 特別養護老人ホーム

施設名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
つむぎの彩	利用実人員	78	70	80	75
	延利用者数	21,664	21,511	21,060	20,152

新型コロナ禍の職員不足と感染防止により、新規入所者の受入ができない状態が続いた。

新規入所者は15名、退所者は20名となった。

⑰ 特養空所利用型短期入所

施設名	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	つむぎの彩	利用実人員	7	13	23
延利用者数		27	409	222	32

特別養護老人ホームと同様、新型コロナウイルス禍の職員不足と感染症予防のため新規利用者の受け入れができなかった。

⑱ 地域包括支援センター事業

相談関係

内 訳	北部包括		中部包括		南部包括	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数
総合相談支援業務	1,886	2,928	342	864	570	705
権利擁護業務	22	30	3	10	0	0
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	708	1,111	37	67	20	35
医療機関からの相談	182	311	49	76	51	60

会議・研修関係

内 訳	北部包括		中部包括		南部包括	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
地域包括支援ネットワークの構築	6	34	6	40	3	24
地域ケア会議	9	—	6	—	1	—
生活支援体制整備事業(件数)	45	219	708	426	197	365
認知症総合支援事業	26	201	47	412	52	291

介護予防支援・ケアマネジメント

内 訳	北部包括	中部包括	南部包括
新規契約届出数	83	23	21
内再委託件数	80	10	17
給付管理数	2,542	417	523
評価件数	252	25	48

介護予防関係

内 訳	北部包括		中部包括		南部包括	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
予防教室	72	568	45	338	30	263
在宅介護者交流会	12	22	4	0	5	9
出前講座	23	574	37	514	17	139

本人、家族、民生委員児童委員、介護支援専門員、医療関係者、行政関係者等から介護、高齢福祉、認知症、医療、経済、金銭管理、高齢者虐待、消費者被害など様々な相談が寄せられた。即日対応を心掛け、これらの相談をじっくり傾聴し、各専門職が専門性を発揮しながら、チームとして相談に対応し、継続した伴走支援を行い、地域包括ケアシステムの理念に基づき包括的に支援した。高齢化の進展、社会情勢から生活課題を抱えやすくなり、相談数は増加している。インテーク時、家族から電話での相談が多く、実態把握のためアウトリーチし、本人と面談している。認知症や家族介護、経済、権利擁護も含めて介護に関する相談が増加している。また、相談や事業については感染症防止対策を講じながら実施した。

「介護予防教室」「介護者ほっとカフェ」「認知症カフェ」「認知症サポーター養成講座」、「出前講座」、「生活支援体制整備事業」など、コロナ禍による社会的フレイルが顕在化される中、地域に出向き、生活習慣病、フレイル予防、認知症との共生と予防のための知識普及を実施した。また、高齢者のニーズ、介護予防や生活支援サービスの把握に努め、必要な方に社会資源とのマッチングをし、顔の見える関係、ネットワーク作りを行った。

今後とも関係機関との密接な連携により、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で最後まで生きがいと尊厳をもって自分らしい暮らしができる地域包括ケアシステムの更なる深化・推進に取り組んでいく。

8、障がい福祉サービス事業

障がい者が自ら望む地域生活を営むことができるよう、支援の一層の充実を図るとともに、ニーズの多様化にきめ細かく対応するため、サービスの質の確保・向上を研修などを通して学んだ。

① 障がい福祉サービス

事業所名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
居宅介護	利用実人員	25	24	26	26
	延利用回数	3,370	3,242	2,535	2,238
重度訪問介護	利用実人員	5	2	1	1
	延利用回数	381	24	6	5
行動援護	利用実人員	3	6	9	8
	延利用回数	563	572	477	426
同行援護	利用実人員	2	2	3	4
	延利用回数	261	237	258	399
移動支援	利用実人員	8	5	5	8
	延利用回数	480	616	515	474
生活サポート	利用実人員	2	1	4	6
	延利用回数	38	46	128	121
訪問入浴	利用実人員	3	1	1	4
	延利用回数	39	63	51	80
地福デイ基準 該当生活介護	利用実人員	8	7	7	7
	延利用回数	764	908	796	733
つづデイ基準 該当生活介護	利用実人員	4	4	3	5
	延利用回数	297	396	337	271
合 計	利用実人員	60	52	59	69
	延利用回数	6,193	6,104	5,103	4,747

- ・居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護、移動支援、生活サポート

今年度も昨年から引き続き新型コロナウイルスの影響で障害施設等の休みや利用控えがみられ利用回数が少なくなることもあったが、一方で新規利用も多くみられ、実績でも伸びが見られた。障害福祉サービスを主として利用していた利用者も高齢

化し、介護保険へ移行するケースも年々出てきている。できるだけ地域内で支えながら在宅生活が営めるよう計画的に自立に向けた取り組みができるよう相談支援専門員とも連携を図っていく。

・訪問入浴

登録者は4名だが、内2名は随時利用、1名は亡くなられた。定期利用されている方は、現在1名となる。

・基準該当生活介護

介護保険における高齢者通所介護の利用者との一緒の利用となっているが、生活能力の向上のための援助となっている。一緒に穏やかに過ごして頂けるよう配慮し、継続した利用につながるよう事業所間での情報共有に努めるとともに、コミュニケーションの取り方や活動内容等についても創意工夫を図っていく。

② 相談支援事業

事業所名		年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		利用実人員	延利用者数				
北秋田市 社協相談 支援事業所	特 定	利用実人員		112	120	143	141
		延利用者数		701	906	966	1,001
	障害児	利用実人員		25	24	33	43
		延利用者数		154	132	141	179
	一 般	利用実人員		54	62	78	81
		延利用者数		469	617	772	802
合 計		利用実人員		191	206	254	265
		延利用者数		1,324	1,655	1,879	1,982

令和4年度は、障害児相談支援の伸びが大きかった。

引き続き、北秋田市民に限らず、上小阿仁村や大館（田代地区）の利用者も受けている。

令和4年度から北秋田市で取り組んでいる災害時個別避難計画の作成にも協力していきたい。

9. 指定管理施設運営事業

市の条例及び関係法令に基づき、市から指定管理者の指定を受けている7施設（老人憩の家ことぶき荘、地域福祉センター、サテライトステーションつづれこ、サポー

トハウスたかのす、森吉支援ハウス、養護老人ホームもろび苑、補助器具センターたかのす)の管理運営を行った。

質の高いサービスかつ安全安心なサービスを提供すると共にサービスの拡大、施設の有効活用や地域交流を図りながら効率的運営かつ管理運営費の削減に努めた。しかし、施設の老朽化に伴う修理費の増加や一部器具・備品の更新など課題も在り、今後とも北秋田市と連携をとりながら適切な施設の管理に努めたい。

① 養護老人ホームもろび苑

施設名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
養護老人ホーム もろび苑	利用実人員	58	56	56	59
	延利用者数	17,403	17,875	17,767	16,536

年度当初から定員割れと入所者の高齢化により退所者10名が重なったことにより延利用者数の減少となった。措置施設であるため入所判定が難しいところであるが市高齢福祉課と連携し待機者の確保に努めたい。

② サポートハウスたかのす・北秋田市森吉生活支援ハウス

事業所名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
サポートハウス たかのす	利用実人員	24	23	23	23
	延利用者数	6,929	7,130	6,962	6,997
	地域交流事業	199	7	0	179
北秋田市森吉 生活支援ハウス	利用実人員	22	26	19	18
	延利用者数	7,008	6,667	6,089	5,573
合 計	利用実人員	46	49	42	41
	延利用者数	13,937	13,797	13,051	12,749

<住居提供事業>

サポートハウスは満床となっているが、森吉生活支援ハウスは2人部屋のニーズがなく空き部屋となっている。入退所は随時市役所と連携しながら対応。入居者の高齢化に伴い介護度が高くなっており、自立での生活が困難なケースが増えているため、日常生活の安全確保に努めたい。

<地域交流事業>

老健面会等での利用は新型コロナウイルス感染予防により中止としているた

め利用はなかったが、8月の大雨による住宅への被害により、避難先としての利用があった。

③ 老人憩の家

施設名		年度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ことぶ き荘	開館日数	308	295	304	320
	延利用者数	2,960	2,041	1,980	2,299

当会にて中部包括支援センターを受託したことにより、介護予防教室での利用が始まったことと、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてきたことにより、利用回数・利用者数の増加につながった。

10、児童福祉の推進

① 児童館の運営

児童館名			年度			
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
鷹巣児童館	延利用者数	幼児	117	69	138	13
		児童	12,169	8,853	8,115	9,789
		大人	145	42	40	39
太田児童館	延利用者数	幼児	43	8	1	23
		児童	5,320	4,303	5,309	3,819
		大人	129	14	1	31
鷹巣中央児童館	延利用者数	幼児	64	2	—	—
		児童	6,756	3,978	—	—
		大人	209	8	—	—
綴子児童館	延利用者数	幼児	17	2	2	3
		児童	3,869	1,129	1,753	1,414
		大人	158	19	16	25
鷹巣西児童館	延利用者数	幼児	53	22	—	—
		児童	1,221	949	—	—
		大人	59	17	—	—
合 計	延利用者数	幼児	294	103	141	39
		児童	29,335	19,212	15,177	15,022
		大人	700	100	57	95

子どもの発達過程や個人差を踏まえ遊びや生活の安定した居場所となるように、また小学校高学年や年長児童の継続的な関りの中で心のよりどころとなるよう居場所つ

くりに努めた。多様化している家庭の背景にも留意し関係機関と連携し適切な支援を行った。ウィズコロナの中で特色ある活動や合同行事を増やしていき他館との交流を図ることができた。

クラブ併設の児童館ではそれぞれの活動が充実するように配慮し、鷹巣児童館ではクラブ利用と自由来館利用を状況に合わせて利用することで、子どもが安定して過ごせるように努め人数増となった。

② 児童クラブの運営

年度クラブ名		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
児童クラブ名					
鷹巣小児童クラブ	延べ利用数	16,161	16,027	17,853	19,492
鷹巣中央小児童クラブ		6,775	5,629	—	—
鷹巣南小児童クラブ		3,449	3,557	—	—
清鷹小児童クラブ		—	—	12,081	10,291
鷹巣東小児童クラブ		3,577	3,389	4,273	4,014
綴子小児童クラブ		6,701	7,121	6,561	5,257
合 計			36,663	35,723	40,768

生活の場として新型コロナウイルスでの学級閉鎖のなかでも他の学年への感染予防に努め家庭へも感染対策を周知することで利用減には至らず利用していただけました。鷹小クラブは1学年の人数増に伴い登録人数も増え利用増に繋がった。東小クラブ、綴小クラブは高学年の部活や児童館利用で減となった。常に子どもに関する情報を保護者と共有し、安心して子育てと就労を両立できるように努めた。支援を必要とする子への理解を深め関係機関と連携し個々に応じた環境に配慮しながら適切な支援に努めた。

③ 子育てサポートハウス「わんぱあく」の運営

区 分		年 度			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延利用者数	つどいの広場	5,395	3,456	3,640	4,200
	一時預かり	703	422	294	257
	病児保育	0	(休止) 0	(休止) 0	(休止) 0
	病後児保育	6	8	1	0
	電話相談	63	58	32	61
	来所相談	83	90	82	102
	見学者	950	807	1,137	1,127
合 計		7,200	4,841	5,186	5,747

令和4年12月新築移転に伴いお下がりコーナー・フリードリンクコーナー常設、使用済みオムツ処分等の新たな取り組みで、つどいの広場は利用増となった。一時預かりはコロナ禍と待機児童の解消で減少傾向にあるが隣接する保健センターとの連携により0歳児の預かり保育が増え保護者の育児負担軽減に助力している。病後児保育事業は、問合せが病児保育に当たる為受入に繋がらなかった。今後は広報誌掲載で森吉・阿仁地域から利用や妊婦健診の際の見学等で利用促進を図りたい。

11、共同募金運動への協力

【赤い羽根共同募金運動】

募金種別	年 度		件数差	令和3年度	令和4年度	金額差額
	令和3年度 (件数)	令和4年度 (件数)		(募金額)	(募金額)	
目標額	-			10,900,000	10,000,000	
達成率	-			86.5%	92.9%	
戸別	8,961	8,981	20	7,465,547	7,391,811	▲73,736
法人	136	133	▲3	736,000	674,000	▲62,000
学校	17	17	0	231,801	195,202	▲36,599
職域	31	28	▲3	676,913	669,559	▲7,354
街頭	2	2	0	18,023	17,938	▲85
イベント	0	2	2	0	3,550	3,550
個人	4	19	15	17,699	60,305	42,606
その他	111	111	0	279,991	274,522	▲5,469
合 計	9,262	9,293	31	9,425,974	9,286,887	▲139,087

目標額10,000,000円に対し92.9%の達成率となった。

昨年度に引き続きコロナ禍による影響下での募金運動となったが、イベント募金の

再開、街頭募金も非接触対応を行いながら実施した。通年型募金として市内企業・店舗の卓上募金箱の設置を依頼しているが、今後新たに協力いただける店舗や寄付付き自動販売機の設置についても検討していきたい。

【公募による市民活動応援事業】

内 訳	年度			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
申込団体数	20	21	21	25
申込事業数	21	21	22	26
助 成 額	1,959,099	1,852,831	2,199,242	2,594,864

地域の福祉課題解決のために活動するボランティア団体や自治会に対して資金面で応援し地域の活性を図ることができた。申請団体の紹介により新たに申請する団体も増えてきている。